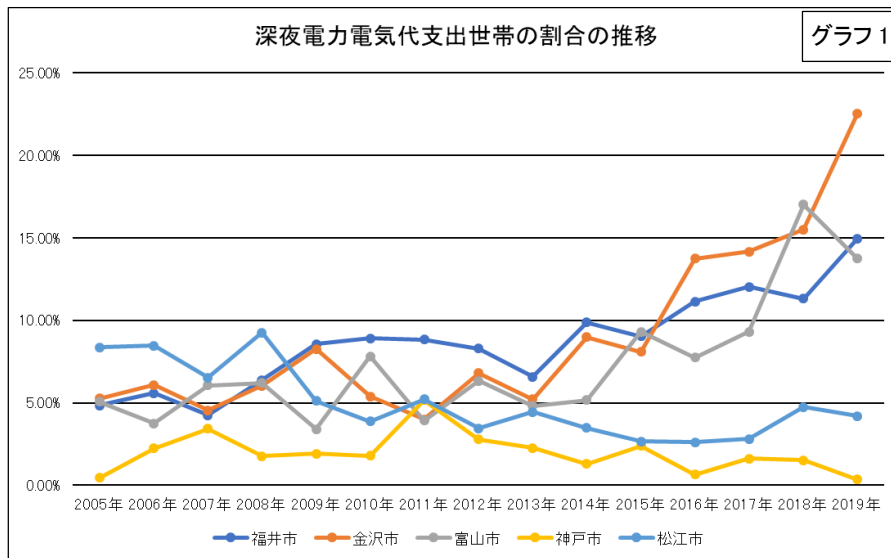


(1) 深夜電力世帯の割合の推移



グラフ 1 は、5 都市の深夜電力電気代支出世帯（深夜電力世帯）の割合の推移を示したグラフである。各月の深夜電力世帯と非深夜電力世帯を合計した世帯数より深夜電力世帯の割合を求め、年ごとに月平均を算出し、グラフ化した。

福井市は 2009 年に 8%を超え、2014 年までは金沢市、富山市より割合が高い傾向にあった。2014 年以降は北陸 3 県の都市の深夜電力世帯の割合が急激に増加している。2013 年は 5%前後であったが、2019 年になると福井市が 15.0%、金沢市が 22.5%、富山市が 13.8%に増加している。

山陰の松江市は、2008 年までは 8%前後であり 5 都市の中で最も高かったが、以降は 5%を下回っており、2019 年は 4.2%である。同じ日本海側であるが、北陸 3 県ほど深夜電力世帯が増えていない。また、神戸市は他の 4 都市に比べ低く、深夜電力を利用する世帯は非常に少ない。

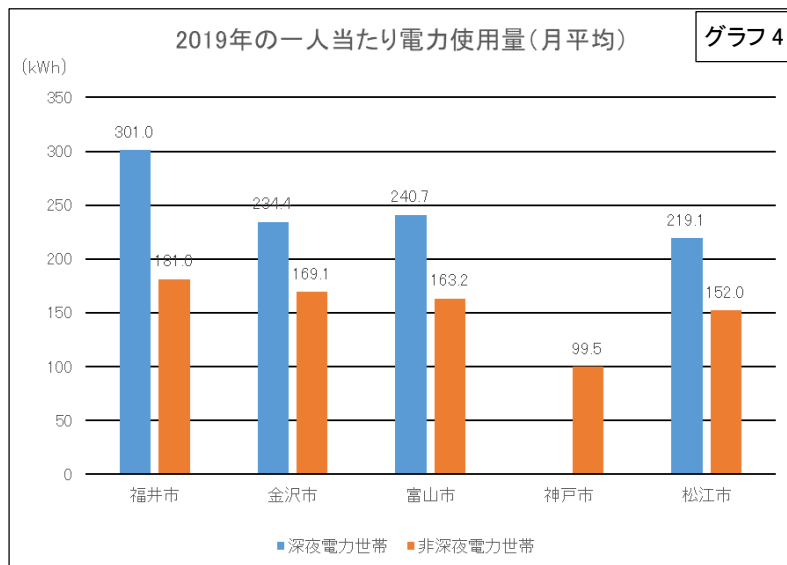
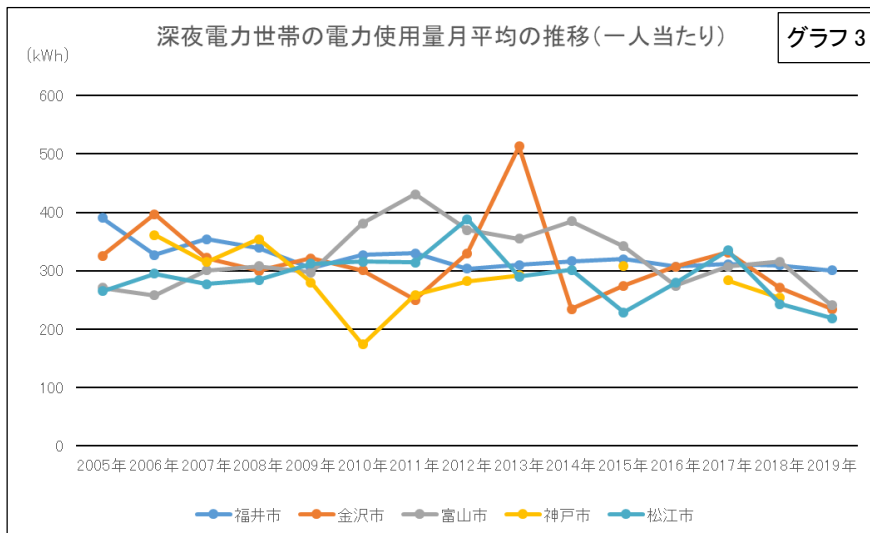
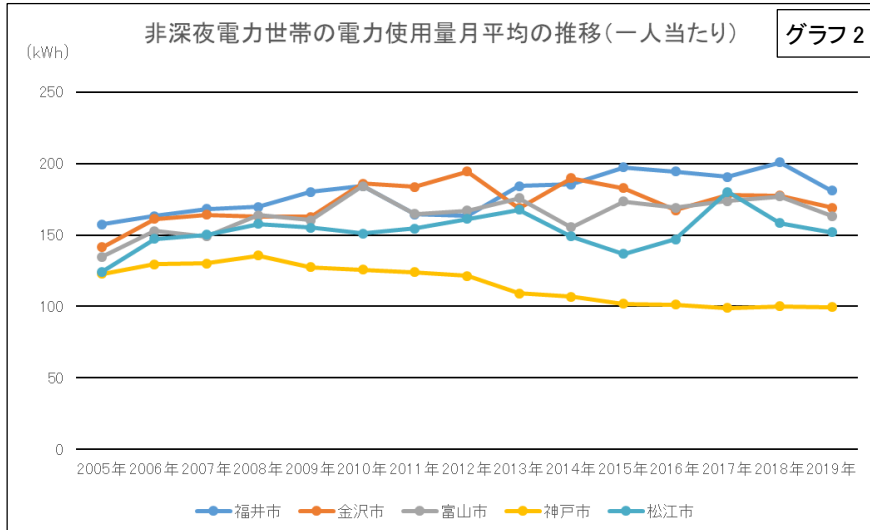
(2) 電力使用量から見た非深夜電力世帯・深夜電力世帯の比較

2-1 電力使用量の比較

非深夜電力世帯と深夜電力世帯の電力使用量の傾向より、各都市の比較を行う。なお、各電力使用量に各世帯人数で除することにより、一人当たりの使用量に算出しグラフ化している。

グラフ 2 に、5 都市の非深夜電力世帯電力使用量月平均の経年変化を示す。福井市、金沢市、富山市は 150~200kWh で推移している。これらの 3 都市の中でも福井市は、2 都市より使用量が多くなる傾向にあり、2005 年の 157.5kWh から 2010 年には 184.3kWh に増加しており、一時的に減ってはいるが、180~200kWh で推移している。金沢市、富山市は福井市を超える年もあるが、160~190kWh 前後で推移している。また、松江市は北陸 3 県の都市より使用量が少なく、150kWh 前後で推移している。一方で、神戸市は最も少なく、2019 年は 99.5kWh であり福井市の半分程度である。また、減少の傾向にある。

グラフ 3 に、5 都市の深夜電力世帯電力使用量月平均の経年変化を示す。月によっては世帯数が 2 以下であるためデータが得られないケースがあり、データが算出できない例外的な年もあるため、一概に比較はできないが、5 都市とも 200~300kWh で推移しており、都市間に大きな違いは見られない。ただ、福井市の 2019 年は 301.0kWh であり、他の都市より若干多くなる傾向にあるのに対し、他の日本海側の 3 都市は 250kWh 以下であり、減少の傾向にある。



グラフ 4 は 2019 年の深夜電力世帯と非深夜電力世帯の電力使用量比較しており、深夜電力電化世帯は 1.3~1.7 倍程度電力使用量が多くなっている。なお、神戸市は 2019 年の深夜電力電化世帯のデータが得られなかったため、グラフ 4 には神戸市の深夜電力電化世帯のデータを入れていない。

2-2 年間の電力使用量の比較

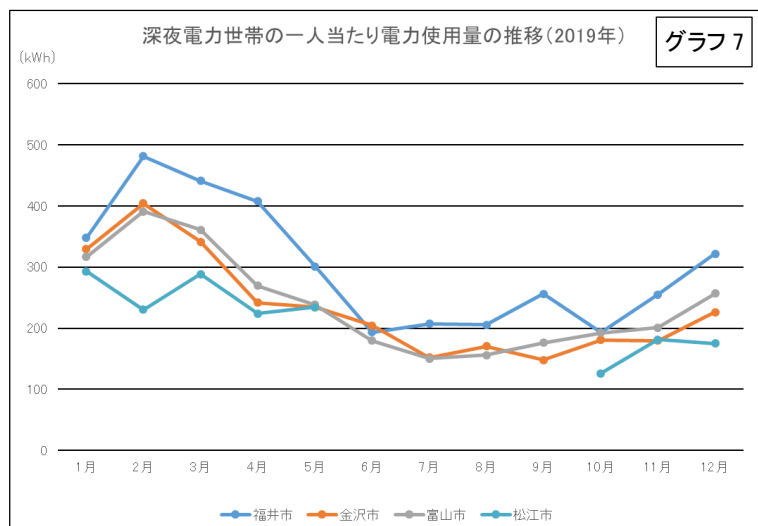
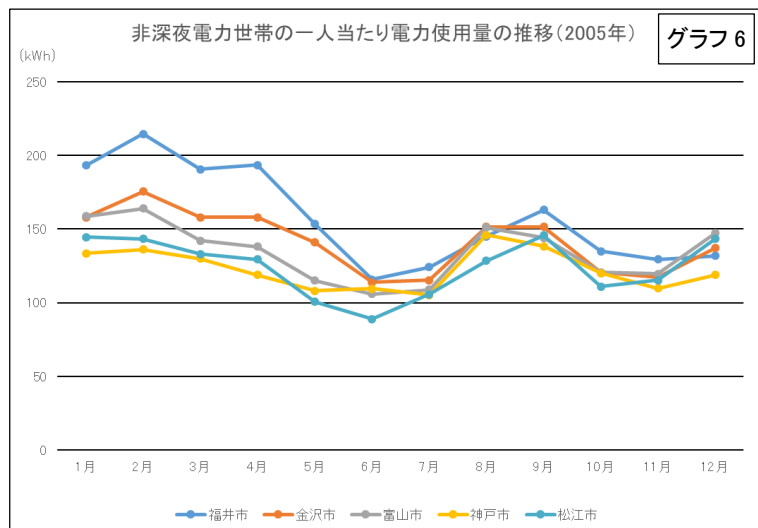
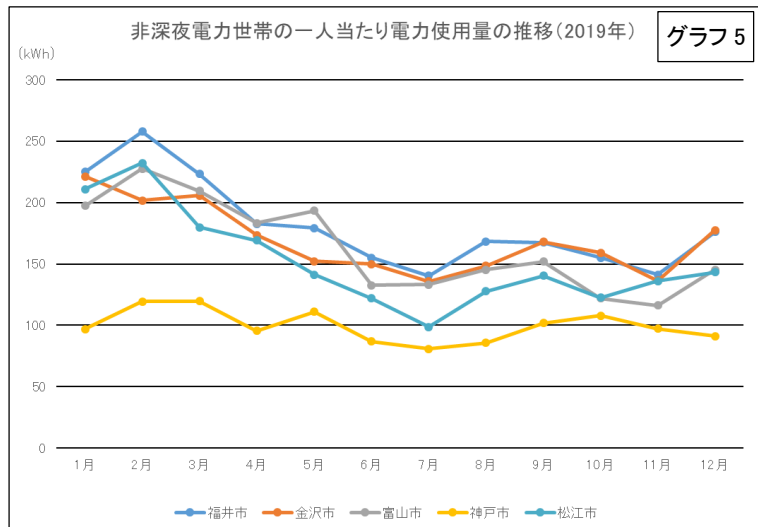
2019年のデータを用いて、年間の電力使用量より各都市の比較を行う。グラフ5は、非深夜電力世帯の2019年の電力使用量の推移である。比較のため、グラフ6に2005年のデータを示す。グラフ5より、日本海側の福井市、金沢市、富山市、松江市の4都市は冬季に電力使用量が増え、夏季に減っているのが分かる。特に福井市においては2月の使用量が257.8kWhであり、冬季の使用量が他都市と比較し多いことが分かる。それに対して、神戸市は年間を通して100kWhで推移しており変動が少ないうえ、日本海側の4都市と比べると使用量が少なくなっている。

グラフ6の2005年のデータでは、日本海側の4都市の傾向は同様であり、例外的な年もあるが、ほとんどの年で同じ傾向がみられる。ただ2005年と比べて日本海側の4都市の2019年の使用量は、年間を通して増加している。それに対し、神戸市は2005年の使用量において日本海側の都市と差があまりないが、2019年は季節を問わず減っているのが分かる。この傾向は2010以降顕著に出ている。

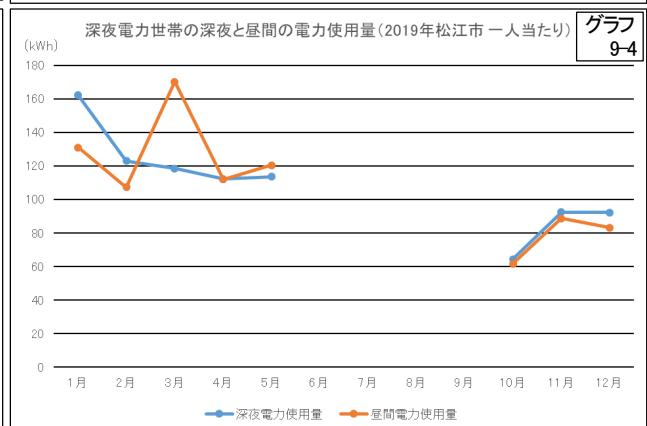
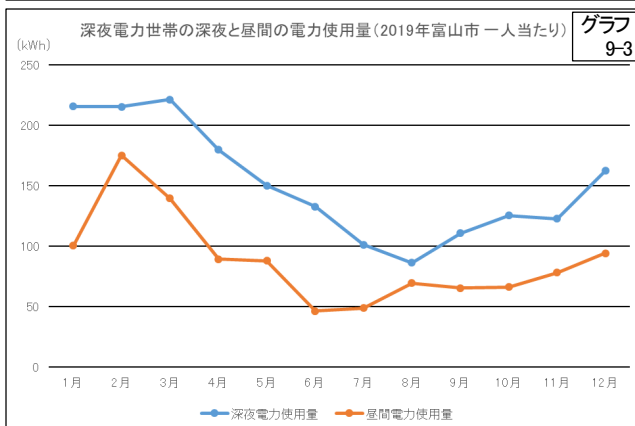
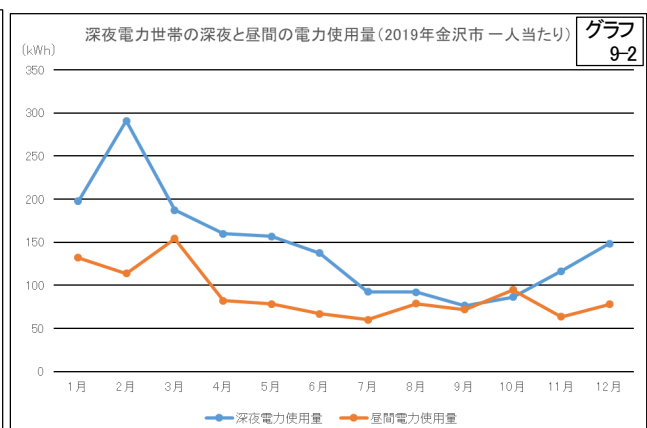
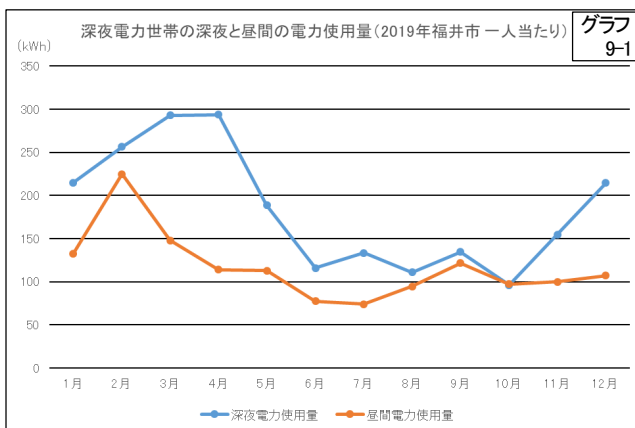
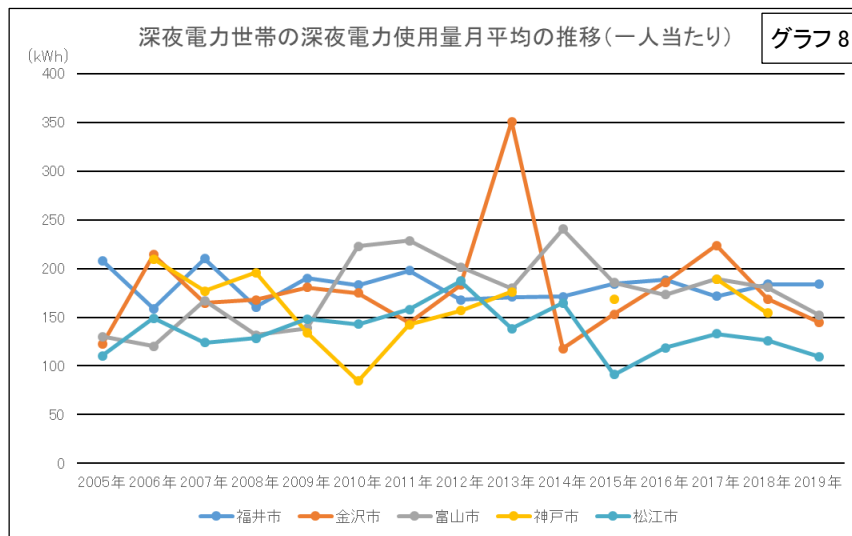
グラフ7は、深夜電力世帯の2019年の電力使用量である。年間のデータが得られていない神戸市は外しており、松江市はデータが得られなかった一部の月の数値を抜いている。世帯数が少ないので単純な比較はできないが、福井市の深夜電力世帯の使用量はどの月も多くなる傾向にある。

前述しているが、日本海側の4都市とも冬季の電力使用量が多くなっている。2019年において2月と7月で比較すると、

非深夜電力世帯で1.4~2.4倍程度、深夜電力世帯で2.3~2.7倍程度2月の方が多い。これは日本海側の冬の気候により、暖房器具の使用が増えることが影響していると考えられる。



2-3 深夜電力世帯の深夜電力使用量の比較



例外的な年もあるが、グラフ 8 より北陸 3 都市の深夜電力世帯の一人当たりの深夜電力使用量は、概ね 150~200kWh で推移している。福井市は大きな差は見られないが、180kWh 前後で推移している。松江市は、2015 年以降 150kWh を下回っており、日本海側の 4 都市の中で一番使用量が少なくなっている。

グラフ 9-1~9-4 に、神戸市を除いた 2019 年における 4 都市の一人当たりの深夜の電力使用量と昼間の電力使用量のデータを示す。なお「昼間の電力使用量」は、深夜電力世帯の電力使用量から深夜電力使

用量の差より算出している。なお、松江市については算出できない月についてはデータを抜いている。北陸3都市では、冬季の深夜電力使用量が夏季と比べると2~3倍程度増加していることが分かる。昼間の電力使用量についても同様の傾向が見られるが、深夜電力使用量よりは少なくなっている。また、夏季から秋季にかけては、深夜電力使用量と昼間の電力使用量は大きな差ではない。松江市は、データが算出できない期間があるので比較が難しいが、深夜電力使用量と昼間の電力使用量の差は小さいことが読み取れる。

2-4 電力使用量のデータから分かること

家計調査の非深夜電力世帯・深夜電力世帯別の電力使用量（一人当たり）より、以下のことが分かる。

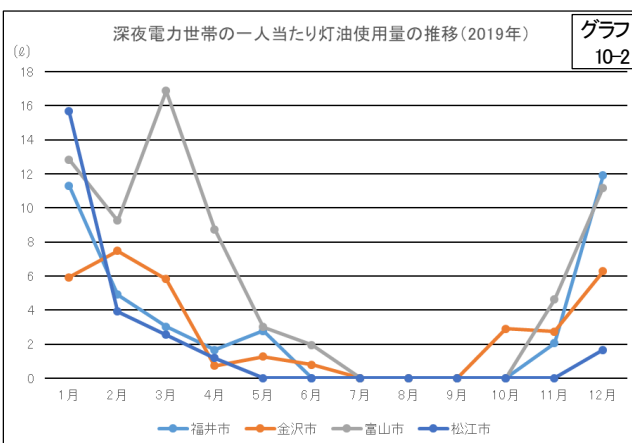
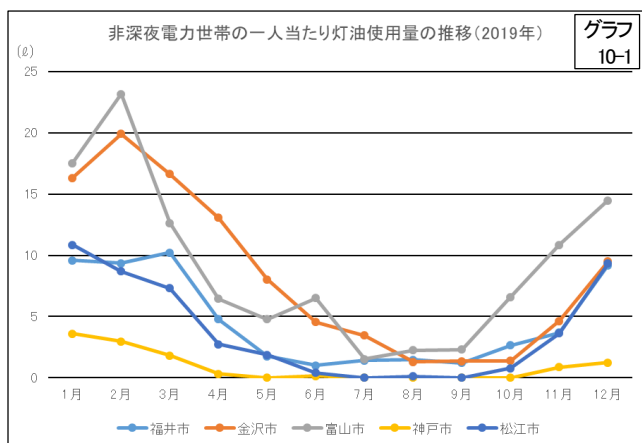
- ・電力使用量は、日本海側の4都市と比べ神戸市は少ない。特に2010年以降顕著に差が見られる。
- ・福井市は、非深夜電力世帯の一人当たり電力使用量が他市と比べ、若干多くなる傾向である。金沢市と富山市は福井市より電気使用量が若干少ないが、この3都市の変動の傾向は類似している。
- ・日本海側の4都市は冬の電力使用量が増える。日本海側の特有の気候のため、冬季に暖房関係の消費電力が増えるためと考えられる。一方で、神戸市は冬季であっても電力使用量が大きく増えていない。
- ・北陸3県の3都市は、深夜電力世帯の冬季の深夜電力使用量が高くなっている。昼間の電力使用量の年間の推移は、深夜電力使用量ほど大きく変動していない。松江市は、深夜電力使用量と昼間の電力使用量の差は小さい。

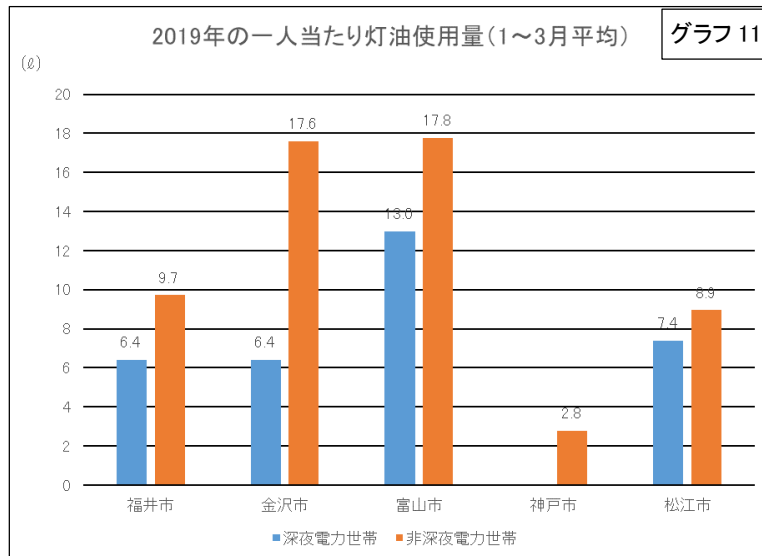
(3) 他のエネルギー消費との比較

以下のエネルギー消費の品目について、非深夜電力世帯・深夜電力世帯別のデータを取得した。

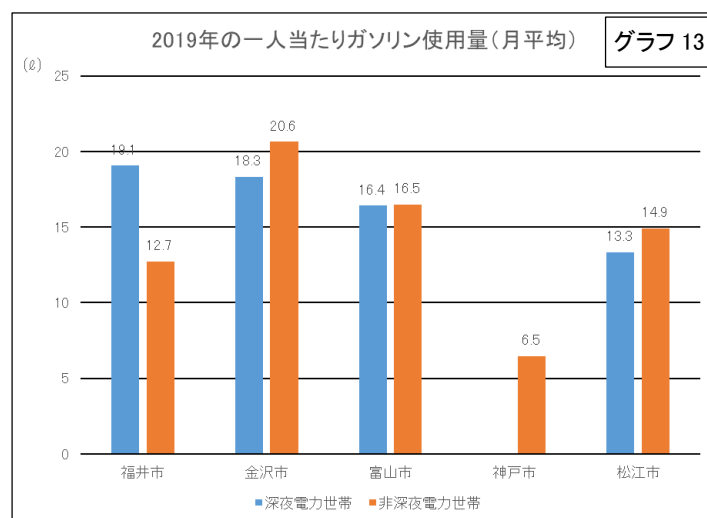
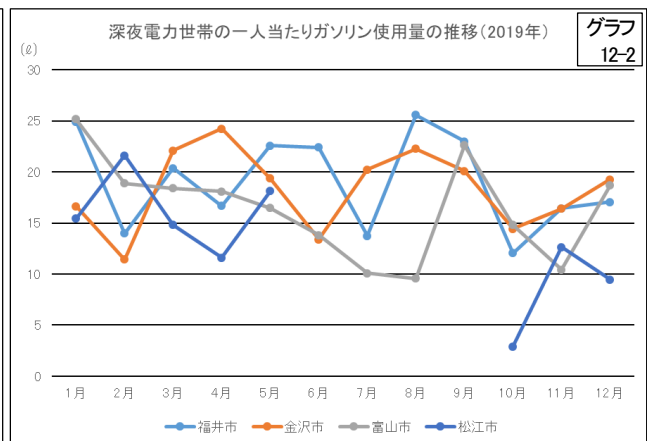
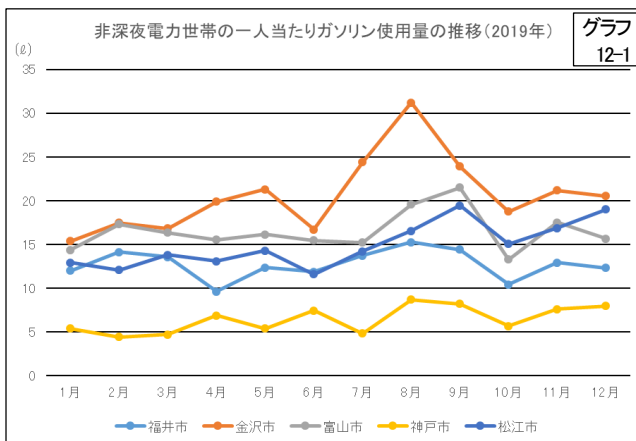
- ・灯油使用量
- ・ガソリン使用量
- ・都市ガス代
- ・プロパンガス使用量

なお、電力使用量と同様に各使用量等を各世帯人数で除することにより、一人当たりの使用量として算出したデータを用いる。なお、神戸市は2019年の深夜電力電化世帯のデータが得られなかったため、グラフからは神戸市の深夜電力電化世帯のデータを削除している。

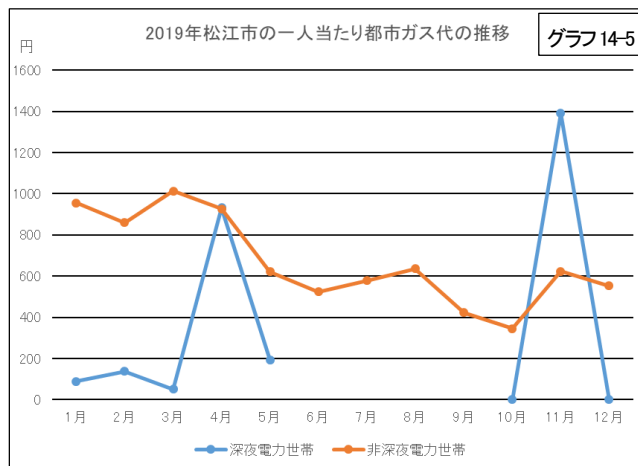
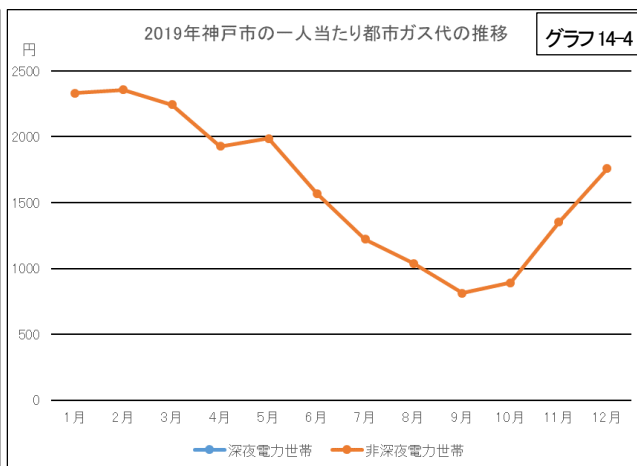
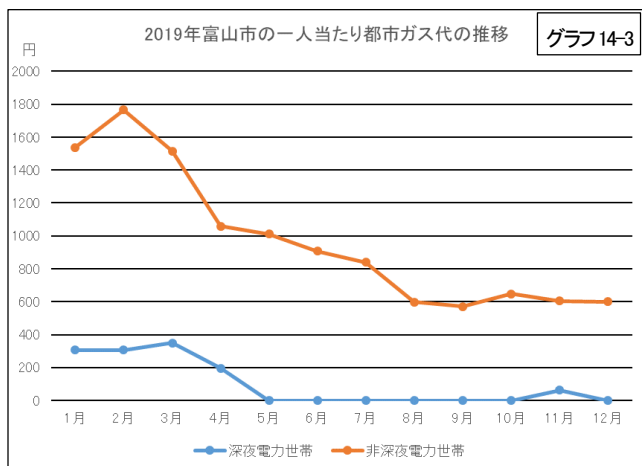
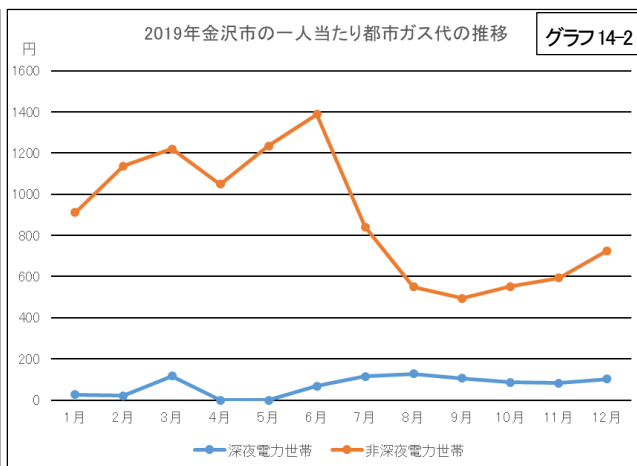
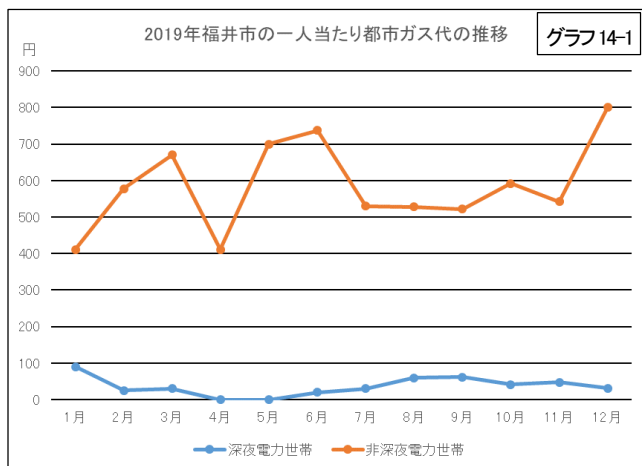




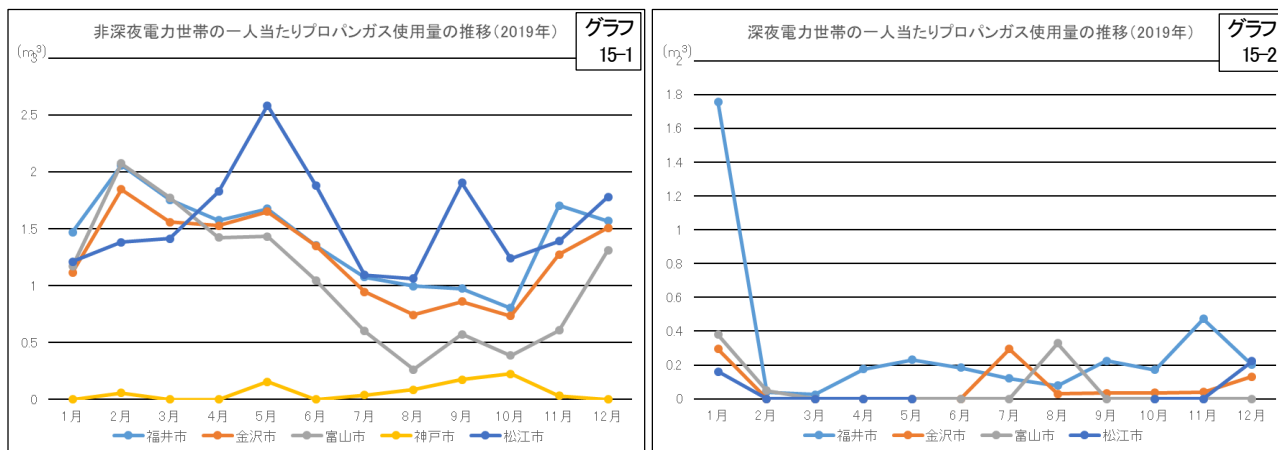
グラフ 10-1~10-2 に、2019 年における 5 都市の灯油使用量の推移を示す。例外の月もあるが、日本海側の 4 都市の冬季の灯油使用量は、深夜電力世帯の方が少ない傾向であることが分かる。グラフ 11 に 1~3 月までの灯油使用量の月平均を示す。福井市と金沢市の深夜電力世帯数の一人当たりの灯油使用量は 6.4 リットルであり、非深夜電力世帯より少ないことが分かる。また、福井市の非深夜電力世帯は 9.7 リットルであり、北陸 3 県の中では少ないことが分かる。神戸市は、灯油使用量が少ない。



グラフ 12-1～12-2 に、2019 年における 5 都市の一人当たりのガソリン使用量の推移を示す。非深夜電力世帯は、季節的な変動はあまりない。深夜電力世帯は、世帯数が少なく、調査された世帯に依存しているため、特徴が出ていない。グラフ 13 に 2018 年のガソリン使用量の月平均を示している。神戸市はガソリン使用量が少ない。これは、日本海側の 4 都市は車社会であるのに対し、神戸市は公共交通機関が発達しており、車の利用が少ないことが影響していると考えられる。



グラフ 14-1～14-5 に 2019 年における 5 都市の都市ガス代の推移を示す。なお、家計調査では都市ガスの使用量のデータはなく、金額のみである。したがって、各都市により料金体系が違うため都市間の正確な比較はできないが、深夜電力世帯と非深夜電力世帯との一人当たりの都市ガス代を比較することにより傾向を読み取る。5 都市とも、深夜電力世帯の都市ガス代は低く、ほとんど都市ガスを使っていないことが分かる。これは、深夜電力世帯はオール電化世帯であるため、炊事、暖房器具で都市ガスを使う機会がほとんどないためである。また、非深夜電力世帯は冬にガス代が増えている。



グラフ 15-1～15-2 に 2019 年のプロパンガス使用量の推移を示す。非深夜電力世帯の神戸市が他の都市と比べて一人当たりの使用量が少ない。これは、グラフ 14-4 を見ると神戸市の都市ガス代が他の市より高い金額で推移しており、都市ガスの普及しているものと考えられる。福井市、金沢市、富山市の非深夜電力世帯は、冬季の使用量が高い傾向にある。深夜電力世帯でプロパンガスを使用する世帯が少ないため例外的なケースが含まれていると考えられるが、すべての市で非深夜電力世帯より少ないのが分かる。